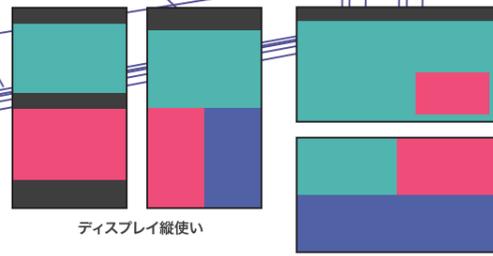


# 感染対策 × 情報発信

## 新様式デジタルサイネージ

レイアウト例



- 文字情報 ■検温ライブ(動画)
- インフォメーション(動画)
- インフォメーション(静止画/スライド)



▶ウッドスタンドは3色から選べます。



## AIサーマルカメラ×デジタルサイネージ

サーマルカメラによる検温ライブ映像にくわえて、任意のコンテンツ(静止画/動画)やテロップ(文字情報)を表示再生します。

『感染防止』と『経済活動』の両立が求められるニューノーマル時代のデジタルサイネージです。

## 『サーマルサイネージ』『検温データ発券システム』

アイ・ティ・エイ・ビデオ・サービス

### お客様、スタッフ、店舗運営を守る

#### 検温に「発信」や「発券」をプラスした感染症対策

新型コロナウイルスの感染防止策として、入口付近で検温するホールは多い。しかし発熱を理由に、面と向かって入店をお断りすることは、必ずしも容易ではない。また検温をすり抜けて入店してしまうお客様も少なからず存在する。これらの対策として「検温」に「プラスα」の機能を搭載した二つのシステムが注目されている。



サーマルサイネージ



アイ・ティ・エイ・ビデオ・サービスは、ホールのさまざまな用途や予算に応じて体表面温度測定システムをリリースしている。『サーマルサイネージ』は、サーマルカメラによる検温ライブ映像に加え、店舗からのインフォメーションなど任意のコンテンツ(静止画/動画)やテロップ(文字情報)を再生表示できる。感染防止と稼働促進の両立が求められるニューノーマル時代のホール営業に最適なデジタルサイネージと言える。

「4MP(フルHDの約2倍)の高解像度ネットワークカメラ」と「計測誤差±0.5°Cの高精度サーマルカメラ」から成る二眼カメラを搭載。AIが人の顔を判断し、顔の最高温度を瞬時(約1秒)に測定する。複数人の同時測定(最大30人も可能)。異常体温や(任意に設定が可能。出荷時は37.5°C)、マスクの未着用を検出し、音声で通知する。さらにサイネージに自主退店をお願いする映像をリンクさせることもできる。

表示部は43型フルHD液晶モニターで、縦でも横でも利用が可能。レイアウトも検温ライブを大きくしたり、逆にインフォメーションを大きくしたり、画面の分割数を変更するなど、自由に設定することができる。配信コンテンツの更新は、レイアウトテンプレートを使った、ドラッグ&ドロップ中心の簡単な操作を行えば良い。文字表示部分にTwitterの自社ツイートをリアルタイムで流すこともできる。スマホから投稿すれば、手軽かつタイムリーな情報配信手段となる。

『検温データ発券システム』は、検温後に測定結果と整理番号などを印字したチケットが発行される業界初のシステム。検温しなければ発券されないため、入場の際にチケット提示を条件付けることで、より確実な検温体制を実施することが可能だ。印字内容のカスタマイズにも対応する。

『サーマルサイネージ』『検温データ発券システム』どちらも検温のためにスタッフを専従させることなく、また被験者が検温機器に触れる必要もないため、感染リスクの低減が見込まれる。一歩踏み込んだ検温は、より防疫意識の高い店舗であることのアピールにもなるだろう。

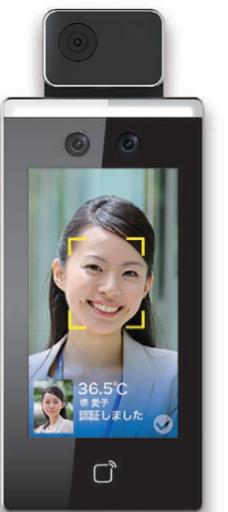
検温データ発券システム



チケット表紙例



プリンター



顔認証検温ターミナル